世界のマエストロシリーズ vol.4

ミシェル・プラッソン＆読売日本交響楽団

フランス音楽の使徒 プラッソンがいざなう、古き良き時代の響き

爛熟した近代フランス文化の香りを知る最後の巨匠、ミシェル・プラッソン。齢83歳となる彼が、芸劇の招きに応じ、一夜限りの来日公演でその腕を揮（ふる）う。

指揮者 ミシェル・プラッソン

妖しくも精妙な調べ、かぐわしい音色を紡ぐマエストロのなかのマエストロ、ミシェル・プラッソンがやってくる。しかもファンの声援も熱い読売日本交響楽団との初顔合わせ。近年、フランス人シェフ、シルヴァン・カンブルランのタクトに導かれ、創造の翼を広げつつある読響にとっても歴史的なステージとなるのではないか。

フランス音楽の使徒プラッソン。オペラとシンフォニーの両輪でキャリアは半世紀に及ぶ。「オペラ」のところには、バレエ音楽と劇音楽も添えるべきだろう。「シンフォニー」のところには、もちろん、内に外に烈しい交響詩も入ってくる。

1960年代の中葉から南仏トゥールーズ・キャピトル管弦楽団に寄り添い、育て、彼らのあでやか、つややかな響きを世界の音楽好きに紹介してきた。昔話をお許しあれ。2001年の晩秋、プラッソンは、愛してやまないトゥールーズのオーケストラと東京でラヴェル名曲選を披露した。それも3公演。そのひとつで「道化師の朝の歌」と「スペイン狂詩曲」という、私たちにとってもおなじみのレパートリーを粋に奏でた後、プラッソンは、時計屋の女房と男たちの駆け引きをコミカルかつ妖艶に描いた歌劇「スペインの時」に腕を揮い、会場を狂喜乱舞させた。作品に語らせつつ、アンサンブルの要所を、フレーズの句読点を独特の息づかいで指し示すマエストロ。オペラと言えば、東京二期会での「ホフマン物語」（2013年）は記憶に新しい。その前には「ファウストの劫罰（ごうばつ）」もあった。パリ管弦楽団との飛翔（2005年の好ましいステージ）を含めて、この人のライブにはいい思い出しかない。

音楽の色気に型、いや匂いまでもお任せあれのプラッソン。まさにフランス音楽の使徒だった。ここぞという場面で即興的なタクトを披露したとしても、演奏のスタイルや方向性をいたずらに崩さない指揮台の紳士、と評することも出来るだろう。ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団とも相愛だった。2016年春は、東京の新国立劇場でマスネの傑作「ウェルテル」を指揮するはずだったが、これはキャンセルとなった。

振り返るのはここまで。近代フランス音楽の系譜を映し出す、10月29日の美しいプログラムを見よ。

待ち遠しいコンサートは、“牧神の午後”をイメージしたフルートの、あの夢幻の調べで始まる。詩人マラルメの世界に浸るべく、ドビュッシーは最初の音高に、下降する音階にこだわった。アンティーク・シンバルの響きがホールにこだまする頃、早くも私たちは異次元へ誘われるのではないか。

そんなドビュッシーと鬼才つながりで親しかったサティの名刺曲も好ましいアクセントとなる。時間の経過とともに表情を変えゆく「海」と叙情派フォーレの「ペレアスとメリザンド」は、巨匠からの贈り物。光彩きらめくクライマックスが、詩情に満ちた歌が東京芸術劇場の空間を満たす。鳥木弥生のステージ・プレゼンスに喝采を。

管の筆致も楽しいラヴェルの佳品「古風なメヌエット」というグラニテ、ソルベを経て、プログラムは何と「ボレロ」で締めくくられる。好調読響との交歓、相乗効果は、さて。「幕切れ」の豪胆な転調と崩壊の美学まで、聴きどころは尽きない。

文：奥田佳道（音楽評論家）

10月29日（土） 15:00開演　コンサートホール　詳細はP10へ

指揮：ミシェル・プラッソン　管弦楽：読売日本交響楽団

～オール・フランス・プログラム～

ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲、交響詩『海』

サティ（ドビュッシー編曲）／『ジムノペディ』第1番、第3番

フォーレ／組曲『ペレアスとメリザンド』op.80

*メゾ・ソプラノ：鳥木弥生

ラヴェル／古風なメヌエット、ボレロ

鳥木弥生

主催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、豊島区

パリ管弦楽団

11月24日（木）・25日（金） 19:00開演　詳細はP12へ

コンサートホール

指揮：ダニエル・ハーディング　ヴァイオリン：ジョシュア・ベル　管弦楽：パリ管弦楽団

11月24日 (木)

ブリテン／オペラ《ピーター・グライムズ》から 4つの海の間奏曲

ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.77

ベルリオーズ／劇的交響曲「ロメオとジュリエット」 op.17から（抜粋）

主催：KAJIMOTO　提携：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

11月25日 (金)

東京芸術劇場2016-2017海外オーケストラシリーズ

メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64

マーラー／交響曲第5番 嬰ハ短調

主催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

ダニエル・ハーディング

©KeiUesugi

ジョシュア・ベル

©Lisa Marie

前橋汀子 デイライト・コンサート Vol.4 ～10人編成の弦楽アンサンブルと～

11月9日（水） 11:30開演 コンサートホール　詳細はP11へ

©篠山紀信

平日の昼、気軽にヴァイオリンの名曲を聴いてみませんか？

クラシック音楽をもっと身近に、多くの人に聴いてもらいたいという本人の想いから始まったデイライト・コンサートも今年で第4回目を迎えます。

今回は弦楽アンサンブルとの共演で、J.S.バッハの「G線上のアリア」をはじめとしたヴァイオリンの名曲小品はもちろん、ヴィヴァルディの「四季」や、エルビス・プレスリー、エディット・ピアフの名曲で紡ぐ愛のメドレーをお届けします。公演時間は約1時間なので、ショッピングやランチ、待ち合わせの前にでもヴァイオリンの名曲を聴いてみませんか？

ヴァイオリン：前橋汀子

弦楽アンサンブル：森下幸路（コンサートマスター、ヴァイオリン） ほか

主催：KAJIMOTO
提携：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

東京芸術劇場&ミューザ川崎シンフォニーホール共同企画 第7回音楽大学オーケストラ・フェスティバル

11月20日（日）・12月10日（土） 15:00開演 コンサートホール　詳細はP12・13へ

選んで聴くか？ 全公演制覇か？ 音大オケの競演

首都圏の9音大と公共ホール2館が連携して毎年開催している「音楽大学オーケストラ・フェスティバル」。今年もその季節がやってきた。音大間の交流と協力を目的に謳っているが、同じステージでの「競演」が刺激となり、プロ顔負けともいえるハイレベルな演奏が繰り広げられることも。各校その年の「勝負曲」で臨むので、プログラムも大曲が並び聴き応え満点。演奏前に共演校が贈る、作曲専攻学生によるオリジナルのファンファーレにも注目したい。今年はどんな感動に出逢えるだろう。聴き比べを楽しみながら、音大生たちの熱演にエールを！

文：吉田雅之

東京芸術劇場コンサートホール：11月20日(日)上野学園大学&武蔵野音楽大学&東京藝術大学／12月10日(土)東邦音楽大学&洗足学園音楽大学

ミューザ川崎シンフォニーホール：11月23日(水・祝)桐朋学園大学&昭和音楽大学／12月3日(土)国立音楽大学&東京音楽大学

主催：音楽大学オーケストラ・フェスティバル実行委員会／ミューザ川崎シンフォニーホール（川崎市文化財団グループ）／東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

ザ・フィルハーモニクス

12月9日（金） 19:00開演 コンサートホール　詳細はP13へ

極上の音楽アドヴェンチャー

ウィーン・フィル、ベルリン・フィルをはじめとする超一流の奏者7人が、超絶技巧を繰り広げリミットなしの音楽を鳴り響かせるザ・フィルハーモニクス。クラシックの王道からオペラ、ジャズ、ラテンや民族色鮮やかな音楽を、最高の響きに乗せて生き生きと奏でていく。聴いているこちらまで、思わず踊りだしたくなってしまうほど。今回は、心弾むクリスマスの音楽を揃えてやってくる。ザ・フィルハーモニクスが贈る極上の音楽アドヴェンチャーは、ひと足早いクリスマス・プレゼントになりそうだ。

出演：ザ・フィルハーモニクス

（1stヴァイオリン：ティボール・コヴァーチ／2ndヴァイオリン：セバスティアン・ギュルトラー／ヴィオラ：ティロ・フェヒナー／チェロ：シュテファン・コンツ／コントラバス：エーデン・ラーツ／クラリネット：ダニエル・オッテンザマー／ピアノ：カールマーン・チェーキ）

主催：ジャパン・アーツ
提携：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

パリ木の十字架少年合唱団

12月20日（火） 19:00開演 コンサートホール　詳細はP14へ

ファン待望の7年ぶり日本公演～天使たちが帰ってくる！

1957年の初来日以来、定期的に日本を訪れ、「パリ木」の愛称で親しまれているパリ木の十字架少年合唱団。その名の通り、おそろいの白いローブの上に平和の祈りを意味する木の十字架をつけ、美しい歌声と愛らしさでファンを魅了してきた。ローマ教皇ヨハネ23世に「私の小さな平和の使徒」と呼ばれた合唱団は、今や世界80か国以上で公演を行っている。今回は7年ぶりの来日、彼らを待ち望んでいた多くのファンの前で再び清らかな歌声を披露してくれる。彼らの真骨頂であるフランスの宗教作品を中心としたレパートリー。ぜひクリスマスにふさわしい心洗われる時間を！

合唱：パリ木の十字架少年合唱団　音楽監督・オルガン：ユーゴ・ギュティエレス

主催：ムジカキアラ
提携：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）